

FD

推進事業 2024レポート



鳴門教育大学

学部・大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会



1. 総括

．．． 1



2. 2024（令和6）年度 FD推進事業方針

．．． 2



3. 2024（令和6）年度 FD推進事業

．．． 3



4. 2024（令和6）年度 FD活動一覧

．．． 6



5. 2024（令和6）年度 FD委員会

．．． 7



1. 総括

予測困難な時代である現代においては、社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうかを問われている。こうした時代を生きる子供たちを育てる令和の学校教育では、直面する事象の中に課題を見いだし、その課題について主体的に考え、協働的に議論し、納得解を生み出す資質・能力を育成することが求められている。それは教師も同様であり、教師自身も目標を定めて学びを設計する力が重要になる。

こうした社会的要請を背景に、鳴門教育大学では、主体的な学び手としての教師の育成を目指した「セルフデザイン型学修」を推進している。セルフデザイン型学修では、学生自身が目指すべき教員像を設定し、その目標に向けて自身で大学での学びをデザインしていく。そうした学生の主体的な学びを支援するために、鳴門教育大学では三つの仕組みを準備した。一つ目は、教員として習得・伸張すべき資質・能力の方向性を示す「鳴門パースペクティブ」である。学生はこれを参照して自ら目指すべき教員像を構築していく。二つ目は、自らの学びを蓄積する学修可視化システム（e-ポートフォリオ）である。学生は自身の学びの成果をここに記録し、省察することで、以前に立てた目標を見直し、その目標に向けて学修を設計していく。三つ目は、令和7年度から実施される体験型学習（セルデザクエスト）である。学生は、自分たちで課題を考え、その課題解決に向けて活動を設計し、グループで実践していく中で、主体的に課題解決に向かう力を育んでいく。

このセルフデザイン型学修に基づく新カリキュラムは令和5年度入学生から導入され、現在2年次まで進行している。「教員養成学修可視化システム」の運用とともに、1年次で「鳴教大生学びの第一歩：学びのセルフデザイン」「鳴教大生学びの第一歩：自己・他者・地域・世界の課題解決」「教育実践基礎演習」を必修科目に位置づけ、セルフデザイン型学修の理念と方法の手引きとしている。

こうした学内の状況を受け、FD推進事業でも、令和4年度からセルフデザイン型学修を視野に入れてテーマを設定し、実施してきた。その結果、セルフデザイン型学修の理念や、具体的にどのような授業が展開されているかはある程度教員間で共有された。一方、e-ポートフォリオをはじめとする具体的な仕組みやセルデザクエストの全体像は、まだ十分に浸透し切っていない。そこで、令和6年度のFD推進事業でも、引き続きセルフデザイン型学修の理解を深めることを目的として、下記のテーマでシンポジウムを開催することとした。

セルフデザイン型学修の全学実践に向けて

シンポジウムでは、藤原伸彦セルフデザイン型学修支援センター所長、山田芳明セルフデザイン型学修専門部会主査が登壇し、e-ポートフォリオの活用の仕方、セルデザクエストの具体と準備状況を報告した。藤原センター所長にe-ポートフォリオの使い方、学生が進めているセルフデザイン型学修の実践についての報告を、山田主査に企画されているセルデザクエストの具体像について報告をいただいた後、意見交換を行った。討議や事後アンケートの記述では、e-ポートフォリオに学びを蓄積させる支援のあり方や、セルデザクエストの具体的展開などが話題となった。事後アンケートでも回答の9割以上から肯定的評価を得られており、セルフデザイン型学修の共有を図るという本事業の目的は達成されたと捉えられる。

セルフデザイン型学修をはじめとする本学の教員養成システムの改革は順調に進行しているものの、今後、さまざまな課題が生じることも想定される。実践を重ね、学生が自身で学びを作り出す力を育てるために、大学全体で取り組んでいくことが必要となる。今後のFD活動においても、授業改善と並行して、大学全体の取組について協働して課題解決にあたることが重要となるであろう。

（文責）

学部・大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長
幾 田 伸 司



2. 2024（令和6）年度 FD推進事業方針

鳴門教育大学は、大学が求める教員像及び人事方針を掲げるとともに、第4期（2022（令和4）年度～2027（令和9）年度）中期目標・中期計画期間において【学修成果可視化・セルフデザイン型学修】の推進を掲げている。
これらを踏まえて、令和6年度のFD推進事業は、今年度から実施されているセルフデザイン型学修の実際を共有し、今後の展望を図ることをテーマとして設定した。

【参考】鳴門教育大学が求める教員像（HP公表：<https://www.naruto-u.ac.jp/staff001.html>）

（中略）次のような能力を有し、積極的に大学運営に参画する意欲ある教員を求める。

教 育：学生の信頼に応え、また、**本学の理念に則った教育活動を実践**し、教員養成に熱意のある教員
研 究：学校教育に関し、自己の専門分野との関連において研究の発展に努めるとともに、学校教育に関する先端的
実践研究を推進することができ、その研究成果を学生の教育及び研究指導に反映させる教員
社会貢献：自己の専門分野の知識・技能を活かし、学校教育はもとより地域社会の発展や、国際社会における学術交流
及び教育支援等に寄与する教員

【参考】国立大学法人鳴門教育大学人事方針（令和3年1月14日学長裁定）

3-(1)採用：公募を原則とし、国内外の優秀な人材の確保に努めるとともに、選考においては、教員養成能力を重視する。
3-(2)育成：**教員の資質能力向上を図ることを目的にFD研修等を実施する**ほか、若手教員を学内委員に積極的に登用し、大学運営能力の育成を図る。

【参考】第4期中期目標前文（抜粋）

関連する中期計画

【ミッション】

- 学校教育を、ICTをはじめとする技術革新と多様化・グローバル化が急激に進展する社会で生きていく子供にとっての社会的共通基盤（インフラストラクチャー）として位置付け、教員養成は、これを担う専門職業人の育成を通して、今後の社会発展と人間のウェルビーイングの実現を左右する重要な位置を占めるものと捉えている。
- 「令和の日本型学校教育」の実現という課題を見据えながら、教員養成大学として果たすべき基礎的な使命を「未来の社会の担い手である全ての子供の可能性を引き出す学校教育の実現」と捉え、これを情報化社会、多様化社会を見据えて実現していくために、本学における教育、研究、社会との共創等の側面での一層の機能強化を図る。

【教育の重点】

- 今後の学習観・指導観の転換を担う教員のあり方として、**教師として主体的に学ぶ力を有し、子供の多様性や教育課題の複雑さに対応した教育実践を創り出していく教師（創造的实践者としての教師）の養成**をねらいとした教育体系の構築を図る。
- 全学DX計画の中で**教師としての主体的な学びを支援するシステム（教員養成学修可視化システム）の開発と運用**を行い、新たな教員養成のモデルを構築し発信する。

【教育委員会、学校等の支援】

- 新たな教育課題に対応したICT利活用、多様性教育、教科横断的教育等の方策に関して、教育委員会、学校等のニーズにきめ細かく応えて研究開発を行う仕組みの構築を行い、学校等における教育課題の解決に寄与する。
- また、教育委員会との連携を一層強化し、現職教員研修の高度化と効率化を支援する。

【教職大学院遠隔教育プログラム】

現職教員や教員免許を保持している社会人等が無理なく働きながら学び続けるための機能を強化した遠隔型教職大学院プログラムを設置し、教職大学院での学修が可能なシステムを構築する。

【グローバル教員養成】

文化的多様性教育の資質向上を図るため、教職大学院生（現職教員）を対象に、JICAとの連携による開発途上国の教育者（研修員及び外国人留学生）と共に学ぶ学修プログラムを新たに構築する。

【「令和の日本型学校教育」に対応する教員輩出】

ICT活用教育、多様性教育、教科横断的教育等に対応したカリキュラムを開発・実施し、学校現場における新たな教育課題に対応するコンピテンシーを身に付け、第4期中の学校現場において必要とされる教員を輩出する。

【学修成果可視化・セルフデザイン型学修】

新社会を担う教員の資質能力に関する**新たな教員養成スタンダード及びそれに応じたルーブリックを開発**し、これに基づきデジタルデータの統合による学修可視化システムの開発・運用により、**教師としての基盤的能力とともに学生個々の教師としての特長を確認、伸長する教員養成教育を推進**する。

【四国国立5大学連携教職課程】

地域ブロックレベルでの教員養成機能の効率化・高度化を両立（最適化）する「広域分散協働型教員養成モデル」として、四国全5国立大学における「大学等連携推進法人」を活用した「連携教職課程」を設置し、教育の質保証を担保した運営を推進する。



鳴門教育大学 **FD** 推進事業 2024

セルフデザイン型学修の 全学実践に向けて

📅 日 時

12/04 [WED]

16:20～17:50

📍 会 場

ハイブリッド

[対面] 総合学生支援棟3階F会議室

[オンライン] Teams（URLは別途送付）

🎓 テー マ

セルフデザイン型学修を中核とする
カリキュラムとその運用

👤 話題提供

藤原伸彦

特命補佐・セルフデザイン型学修支援センター所長

山田芳明

特命補佐・セルフデザイン型学修専門部会主査



令和6年度から、学部・大学院も含め全学的に「e-ポートフォリオシステム」（R6.11月～）、「教員養成学修可視化システム<セルデザ>」（R7.3月～）が導入され、令和7年度からは学部において「学びを統合する体験活動<鳴教大生セルデザクエスト>」（R7.4月～）が始まります。いよいよ、セルフデザイン型学修の実質化を図るカリキュラムが本格的に稼働します。

そこで、本学教員はどのように学生とセルフデザイン型学修を実践・指導していけばよいか理解を深めるため、今回のテーマを設定しました。是非ご参加ください。



次第

16:20 開会挨拶
16:30 話題提供
17:20 質疑応答
17:50 閉会挨拶



事前申込

不要



事務窓口

教務課
教育支援係（DX）

TEL 088-687-6194

E-mail kdx@naruto-u.ac.jp



3. 2024（令和6）年度 FD推進事業 <当日>

開会挨拶

佐古秀一学長



前年度FDにおいてセルフデザイン型学修の理念・概要は共有されたので、今回は「鳴門パースペクティブ」「e-ポートフォリオ」「教員養成学修可視化システム」「セルデザクエスト」等のツールを活用した具体的・実践的な運用や留意点をご理解いただきたいと思います。

話題提供

「セルフデザイン型学修を中心とするカリキュラムとその運用」

藤原伸彦
（特命補佐・セルフデザイン型学修支援センター所長）

山田 芳明
（特命補佐・セルフデザイン型学修専門部会主査）



質疑応答・共同討議

（全員参加）



Q：セルフデザイン型学修に関連する授業は、誰が担当するのか？

A：原則クラス担当教員を想定しているが、3～4年生ではゼミ指導教員に担当を代わることも考えられる。



Q：「鳴教大生セルデザクエスト」の体験活動について、学生はコースを越えてグループを組むのか？

A：トランスファラブルスキルの伸長を踏まえて、基本的にはコースを越えてグループを作ることを想定している。学生自身が自分の強みを伸ばす活動を考えて選ぶことになる。



Q：e-ポートフォリオの記録について、今日感じたことや、授業の中で気になった言葉、先生の言葉等をメモを書き留めするような使い方をしてもいいのか？

A：端的に書いていけばよいが、単なるメモだけだと後で見た時に振り返りのエビデンスとして活用するのに十分な量が書けているか危惧される面もある。運用しながら考えたい。



A：「書く」負担を減らせるかが重要となる。学生同士がリフレクションする中で、語ったものが記録されるようなシステムへとバージョンアップしていければ、学生の負担も減り、記録の量も増えると思われる。



閉会挨拶

梅津副学長



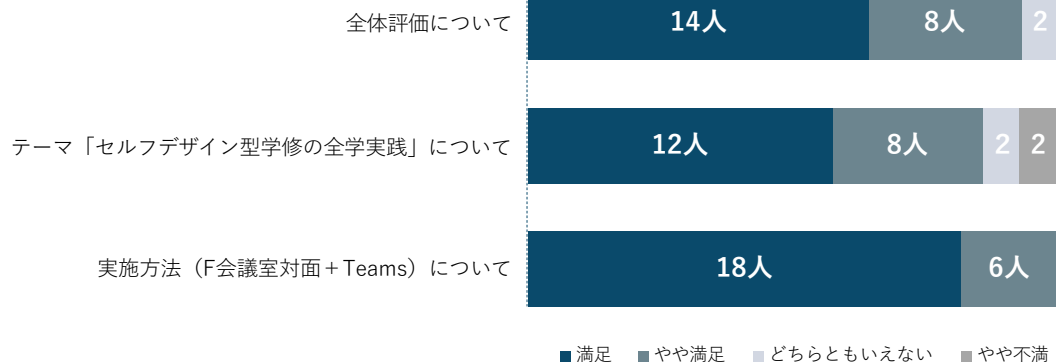
セルフデザイン型学修を実際に実践しようとするすると抽象的で難しい面があります。令和7年度から全学的・本格的に実践していく中で、学生をどのように伴走型指導していけばいいのか、アジャイル的に課題を克服しながら私たち教員全員で取り組んでいければと思っています。



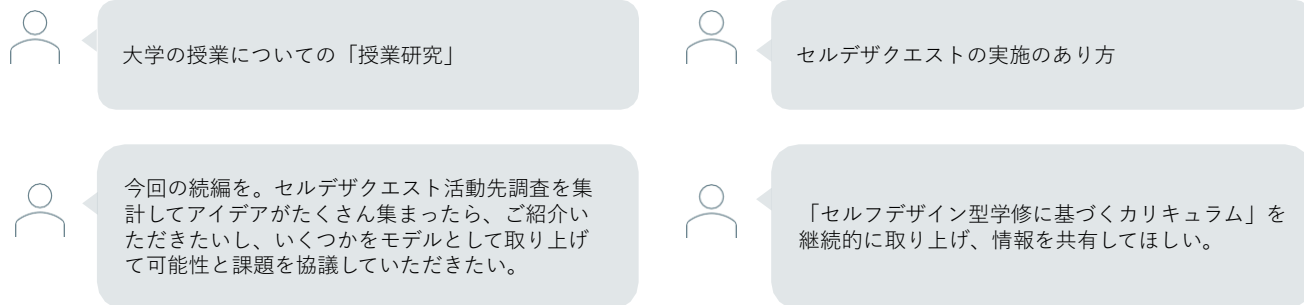
3. 2024（令和6）年度 FD推進事業 <アンケート結果>



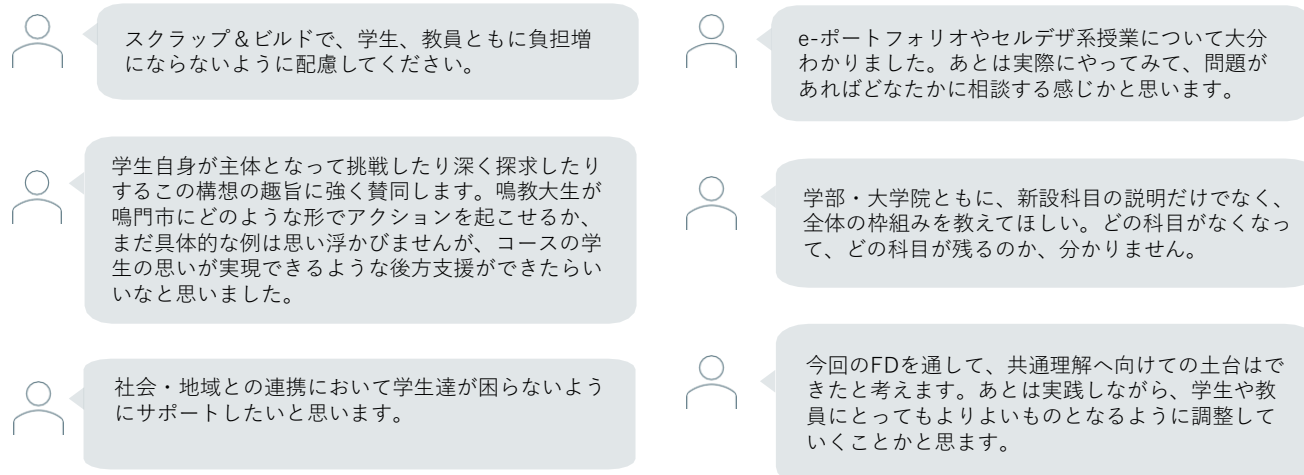
■12/04（水）開催「FD推進事業」について



■今後「FD推進事業」として取り上げてほしいテーマ



■その他自由記述



※鳴門教育大学HP及び学内ポータルサイトから FD機能を含む活動を集約。

※下表構成は機関別認証評価におけるFD状況に係る提出様式を踏まえている。

※認証評価等における狭義のFDは「教育（授業・指導）改善」に限定されるが、本表では若干幅広に集約。

FD（要素を含む）活動	主催	概要 （実施内容・方法等）
新任職員研修	総務課労務係	時期：令和06年04月05日 方法：対面（F会議室） 趣旨：大学に採用となった教職員が、本学の理念及び達成すべき諸課題等について理解し、職務 遂行上必要な基礎的知識・倫理観を学ぶ。
教職大学院遠隔教育プログラムに関する学内シンポジウム	教職大学院遠隔教育プログラムの円滑な推進に係るTF	時期：令和06年07月24日 方法：対面（F会議室） 趣旨：学内教職員が、教科・総合系へ拡大展開予定（令和7年度開設）の教職大学院遠隔教育プログラムについて、教職系（令和4年度開設）の具体的な展開事例を学ぶ。
令和6年度鳴門教育大学DX推進セミナー	経営企画戦略課広報・事務DX推進室	時期：令和06年07月31日 方法：対面（F会議室） 趣旨：学内の教職員及び学生が、DX推進で役立つツールやその活用方法等を中心にICT・DX推進に関する最新動向と本学の環境について基礎的な理解を深め、DX推進に欠かせないデジタル技術の活用に積極的な組織文化を育成する。
令和6年度SPOD内講師派遣プログラム	総務課労務係	時期：令和06年09月19日 方法：対面（F会議室） テーマ：「これからの教職協働」 大学教職員として高等教育政策の動向や事例を理解し、教職協働を実質化する。
合理的配慮に関する教職員研修会	学生なんでも相談室	時期：令和06年10月23日 方法：対面（F会議室） テーマ：「学生目線から合理的配慮を考える」 当事者である学生あるいは修了生から見た学生生活の実際について 話題提供後、学生なんでも相談室の教員と話題提供者とのディスカッションの中で、必要とされている合理的配慮について理解を深める。
情報セキュリティセミナー	情報基盤センター	時期：令和07年02月27日 方法：対面（F会議室）・オンライン（Teams） テーマ：「情報を活用するための最新情報管理術」 教職員及び学生（附属学校園教職員含む）が、最近のOffice365 で提供されるモダンな情報管理のしくみについての知識や意識の向上を図り、Copilot ready な情報管理を目的とする。

氏名	職名	備考
幾田 伸司	特命補佐 （教師教育研究・FD担当）	委員長
吉井 健治	専攻長 （人間教育専攻）	
福井 典代	専攻長 （高度学校教育実践専攻（教科・総合系））	
久我 直人	専攻長 （高度学校教育実践専攻（教職系））	
田中 大輝	副専攻長 （人間教育専攻）	
原田 昌博	副専攻長 （高度学校教育実践専攻（教科・総合系））	
栗原 慶	副専攻長 （高度学校教育実践専攻（教科・総合系））	
塩路 晶子	副専攻長 （高度学校教育実践専攻（教職系））	
山田 芳明	特命補佐 （学部教育・連携教職課程担当）	
梅津 正美	副学長 （教育・改革担当）	オブザーバー